

# 緑地新聞

## 9

2019年3月発行

### 里山保全ボランティア／首都大で竹を切ろう

#### 【里山保全体験会】

二月二十二日(金)に、松木日向緑地での里山保全ボランティア体験会を行いました。体験会の目的は、(一)松木日向緑地を知ってもらう(二)体験会を通じて里山保全に関心を持ってもらうきっかけをつくるの二点です。学部生、大学院生、教職員と様々な所属の4名が参加してくださいました。体験会では、はじめに一時間ほど、緑地の観察と竹の伐採を体験していただきました。

次に、教室で緑地・里山について学習し、松木日向緑地をより良くする取り組みについてディスカッションしました。

#### 【緑地整備】

竹の伐採体験では、はじめに、「管理されている竹林」と「あえて手を加えていない竹林」を観察してもらいました。

「首都大にこんな場所があったのか」と驚く参加者。一年目のメンバーが一年間の活動の経験を踏まえ、竹林管理の意義を説明しました。

管理の必要性を知ったところで、実際に竹を伐採します。プログラムメンバーによるサポートのもと、協力して竹を伐採しました。「予想以上の運動だった」という声もあり、作業後は汗だくでした。



協力して竹を切る参加者とプログラムメンバー

#### 【松木日向緑地をより良くするには?】

竹林管理作業の後には、体験会参加者とプログラムメンバーで、松木日向緑地をより良くする取り組みについて、グループディスカッションをしました。本プログラムでは活動を「やりっ放し」にせず、「事前学習」や「事後学習」などで、緑地・里山について問題点や自分の考えを互いに話し合い、共有してきました。今回、プログラムで行っているような学習を、参加者にも体験してもらいました。今回のディスカッションでは、体験会参加者による、今までにはなかったような視点からの意見や今回の体験の感想を聴くことができ、特に充実していたと感じました。感想の一例としては、「今回の体験会をきっかけに四月のたけのこ掘り活動にも参加しようと思った」などがあり、緑地・里山だけでなく、他のボランティア活動についても関心をもっていたことができました。

#### 【次年度に向けて】

このような体験会を通して、さらに活動の輪を広げ、規模の拡大を図ることができれば、さらに本プログラムの意義が高まるでしょう。プログラムメンバーは、この一年間で自分たちが行ってきた活動の内容・大切さを再確認することができました。新年度に向けた新たな取り組みについても各々が考える良い機会になったと思います。



グループディスカッションの様子

### 緑地川柳

竹林に  
したたる汗は  
筍へ

#### 編集後記 生命・修士二年・K

ボランティアプログラムも三年目を迎え、開始当初は考えられなかったような取組もできるようになりました。取組は変化しても、松木日向緑地が親しみやすい場所であり続けて欲しいです。

#### 編集・発行

首都大学東京ボランティアセンター(南大沢キャンパス 一号館一階)

電話 〇四二一六七七一三五四 メール [tmu-volunteer@jmi.tmu.ac.jp](mailto:tmu-volunteer@jmi.tmu.ac.jp)

#### 文章担当

地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー